(明治三十八年七月廿六日第三種郵便物認可)

滿洲日報

明治四十年十月四日　金曜日　滿洲日報第六百四十七號　(一)

滿洲日報社發行　滿洲日報社電話編輯室二一一　營口南本街　事務室二九

滿洲八月二十七日（ひのえ、いぬ）

一枚三錢●新聞代價表　半ケ年金三圓四十錢　一ケ年金六圓五十錢　滿洲各地への配達は郵稅一切不申受

五號活字十九字詰一行一回五十錢　特別廣告全●廣告料

大連倩運町　滿洲日報社出張所　長春城內　滿洲日報社出張所　奉天大東門內　滿洲日報社出張所　全十間閘　滿洲日報社出張所　鞍山九科街　滿洲日報社出張所　公主嶺文那町　滿洲日報社出張所　遼陽北門外　滿洲日報社出張所

論說

營口問題に就て
後藤總裁に望む　(上)

南滿洲鐵道の日本に歸したるの一事が、世界列國極東政策の上に造ぼして、殆んど劃然として、日本の位地を晰確ならしめしは衆目の視るところ也。

而るに此の重責ある鐵道政策の操縱を宜くし、獨り自から滿洲其のものゝ經營に止まらず、延いて各列國の政治的圈内に介在し、外交的圓滿を圖るに於て、日本は當時『大なる人物』の要求に忙がしかりき。而り宛かも立憲確立時代にありし大臣擬選の塲合に等しかりき。或は其の所謂「大なる人物」なる乎、將た又た「大ならざる人物」なる乎は、今俄かに吾人の之を言明する能はざるも、兎に角幸なる絆には會々後藤氏の有るありて、好く其重任を抱ひて起つ。

吾人の觀察を以て氏が經營しつゝある外形を摩すれば、先づ其の手腕の歷史的經過に於ては圓轉滑脫とには有さるも、而かも亦た左程の困澁を發見せざるは、蓋し氏を誠實なる經營者と見做して不可無かるべく、此點に於て、吾人は唯だ氏の心意に對し感謝の情を送るに躊躇せざる也。

然りと雖も千慮の中の一失、人苟くも「神人」に非らざる限り、又た他の一面にありて缺處を蓄ふるは、便はち汎ろく人類の缺陷なる以上、後藤氏と雖も恐くは此範圍を脫却するの聖識と聖格とを有せざる可し

吾人は信ず。客年六月五日チャイナ、タイムス紙上に揭載されし一記事が、後藤氏の行ひつゝある鐵道經營の根據を襲ひ、而して吾人をして吾人が平素後藤氏を憑頼し來りたる信念の幾分を削弱せしめたるは、最も遺憾なる一事として永く記憶を離る可からざるものあり。

チヤイナ、タイムス所載の記事は即はち後藤氏が滿洲問題の摯實なる研究者として極東政策の熱心なる觀察者として、恒に吾人の羨仰を深ふせしめつゝある、同社の代表者カウエン氏と會談せる顯末之れ也。

而して其の會談の顯末中吾人の最も注意を拂はんとするもの實に營口問題の一事なりとす。而るにカウエン氏が

「聞くところに依れば鐵道は營口を衰頽せしめ大連のみを繁盛ならしむるの兆候が事實の上に於て之れあるは奈何？」

との質問に向ひ、頭邁果斷を精髓となせしは

▲立憲期限の縮少　過日上諭を以て今后十五個年を限りて立憲政體實施の期と定めたりしが今回内閣軍機王大臣等相會し五個年を縮少以て立憲の成立を速かならしめんとを議し兩宮の裁可を仰けりと

▲張之洞と西太后の信賴　張之洞氏此程參内謁見の節西太后張中堂に謂つて曰く慶親王は已に老ひ載澧尙幼なり現時國家の柱石たるもの汝を措きて他にあるなし一切政治の讎理は總て汝に仗らるゝへからずと中堂答謝して曰く臣は愚直にして深く聖恩を辱ふし誠に感激に堪へざる所なり今國步艱難の際赤心國を思ふもの獨り臣のみにあらざる也陛下願くは聖慮を安んぜられんとを若し夫れ新政に關する内外大臣の奏陳の如きは臣則ち緩急を斟酌し以て陛下の御覽に呈すへし云々

▲英露協約と外務部　英露協約發表せらるゝと共に駐清露國公使は外務部に之れを通牒したるに其内容は波斯問題の解結し蒙古新疆西藏の保全にありて清國と關係する所重大なるを以て外務部は特に各大臣を會して連日會議しつゝありと

▲憲政視察と出洋經費　清國政府は日英獨三國に憲政調査として汪千達の三大臣を派遣する事に決したるが同經費は已に度支部より支出さるゝと爲り其日本に赴くものは十五万兩に確定せりと

▲政府の邊疆開放　清國當局は其邊疆の地區を悉く開放して通商地と爲し併せて蒙古各地の全部をも開かんとするの意あり各大臣も多くは之に贊成しつゝあるも奈何せん經費多額にして且つ開放上其規則等に就き熟考を要すべき點尠からざるを以て尙當分は實行し難かるへしと

▲達侍郎と特別密旨　憲政大臣として我國に派遣せらるへき同侍郎は尙ほ留學生の行動を審査すべき特別の密旨を帶べる由にて若し革命黨の證跡あるものあらば直ちに捕へて之を處劃せんとの方針なる由

善隣要聞

▲青島領事と日露　日露兩國は何れも今回青島に領事館を設置するに決定せる旨傳へらるゝも露國は暫く獨乙人を以て名譽領事と爲し當分は領事を派遣せざる由にて日本は尙未定なりといふ

外事抄譯

歐米各國の諸雜誌諸新聞中讀者の參考となるへき有益なる資料興味ある問題等を飜譯して該欄に錄することゝものにて社友の寄稿に係るもの〻ごとく掲げて銀行者の參考に資す

銀行員の修養

我北米合衆國の各銀行組合は數年來、クリヴランド市に於て、銀行事務員及び備員に對して、經濟上の智識と銀行業に關する素養とを與ふるの目的を以て屢々集會を催せるに其結果は頗る良好なりき

銀行業は近來業務の範圍擴張されたると同時に營業の複雜なるに隨ひ各分擔の事務は却つて其方面を狹うし、一面の仕事には熟練するも他の方面の事務に至つては毫も之に通曉する能はす、例へば大銀行の事務員はコレスポンデンスの仕組に賴り、銀行界のより廣き天地を觀察するの機會はありと雖も、受持以外の事は稀に横目にて傍觀する丈けにて、彼の小銀行事務員の如く出納、會計、係、破產係を兼帶するが如き全般に渉れる事務を取扱ふ能はす、之れ銀行員の智識修養上甚だ遺憾とすへき處ろなれば機會を逸せず何等かの方法を以て彼等に銀行諸般に關する素養を與ふるの必要あるべきを信す

現今は英、獨何れも事務員を修養するの目的を以て學校を設立し、銀行業に關する一般智識を敎授しつゝあり、翻つて我が米國の有樣を見るに、從來は銀行即ち學校てふ狀況なりき今其銀行史を按するに、建國當時の銀行家なるものゝ無學無智なりしを證據立つるの實例少なからす、彼のアレキサンドル、ハミルトン氏の如きは例外なり氏は聰明達識の資質を以て中央政府の財政を支持せんか爲め、合衆國に於る第一銀行を建設し、偉大なる效果を收めたり、其他當時の銀行にして今日尙存在するものあるを見れは當時の銀行家と雖も、滿更財政の智識なかりしにはあらさらんも、自由銀行の發達に伴ひ、銀行業務の國民に開放せられたるより以來、建國當時の銀行に起りたる災害は其例少なからす、之れ皆無學を以て自ら足れりと爲したる者の招きたる禍にして自ら足れりと爲したる者の招きたる禍に外ならす

滿洲百人物

(四)　柴田要治郎

前長春領事分館主任柴田要治郎君を問ふ者あり、柴田君は何の人ぞやと。評論難し、而も一言以て之を評す、曰く外交官中の秀才なりと。

君、明治三十七年最優等を以て東京帝國大學を卒業す、寺尾博士聘して其女を以てす、夫人よりも博士の方却つて其才學に惚込みたるなりといふ。

業後直に外交官試驗に及第し、補を以て營口に來り、更に天津に轉じ長春に赴き、今は則ち外交官補として遠く任に英國大使館に就かんとす。若し我幾多外交官中、其最年少者を求めば君は則ち其一人也、秀才に非ずして何ぞや。

然れども君が器は世の所謂秀才に非ず、甲等大學を出づと雖も、書物の人に非ずして實際の人也、童顏尙經歷に乏しと雖も、君は決して「お坊チャン」には非ず、相當に識見を有し、相當に世故に長じ、事理に通じ、相當に世故に長じ、鋒鋩陸離、動もすれば顯脫せんとす、秀才たる所以也。

君は又狹隘なる吏人の群に在りて、恐るべき怪傑家にして、又恐るべき豪酒家なり。其豐頰紅を潮し、兩耳潮く熱するや、談論益〻蕪境に入り、一世を罵倒して傍ら人無きが若し、飮めば吹き、吹けば飮み、痛飮淋漓、斗酒俠ち邊然として馨く、君も亦當世の快男兒なる哉。

然れども年少輩達は、古來鑑戒とする所、秀才たる者、抑損以て其鋒鋩を斂むる所無くばある可らず。

經濟小話

添田興銀總裁が倫敦市場に於て滿鐵社債の不整理を喚々するあり、我輩は其說の可否を問ふの愚を學ばずと雖も、元來日本人及び日本に來りて外字新聞通信に從事せる輩中徒らに滿鐵の施業方針に冷嘲を加ふるを以て快とするあり、之が爲に滿洲の發展を阻礙せらるゝこと著しかるべし、我輩は今少しく現時の新聞記者に經濟的研究の餘地を與へ、滿鐵の眞相を知らしたきものなり

全社の經營豈に痛罵に値ねすべきものゝみならんや

英蘭銀行の利子は四分五厘となり、此後は更に昇騰すべき形勢ありと外電は報ぜり米獨兩國の商工業が活潑にして如何に多くの資金を世界の統濟的中心に向つて求めつゝあるかを想像するに餘りあり、金利の高きは或場合に景氣恢復の徵候あるべきも、之と反對に金利の漸次安くなるは或意味に於て商工業の沈衰を含めるものならずや

□舟美人の商標

上海の紡績市場で舟美人の商標のあるのが大邊持てが好いそうだが之れは大阪の福島紡績製造の紡績で其商標は全紡績專務の源大坊芳造君が或時上海へ遊んで陸少豐七いふ美人が船遊びをしてる寫眞から思ひ付いたのだそうだ、支那市場の人氣を取るのに這ん處ろ迄注意すると流石は大阪商人だと感心してた

快男兒

第八十一回　渡邊駅禪

扱ても惡黨棟庵はお琴に禮を迫べられて、棟「エ、飛んだ事てす、お禮なとを被仰つては不可ません、縱令不見不知の他人てあらうと、爾いふ難儀を爲された所を見たら身に引き受けて御世話を致すのが人情、況して魯嬢樣方は同輩の爾も知人、立派なお身分てありながら、不幸にして有爲轉變の烈しい浮世に運り合はされた爲め、左樣な艱難苦勞を遊ばさる、その薄命なお身上を承はつては、どうも愚老の性分として、傍觀いたす譯にはまゐりません、それゆゑ不行屆ながらも、慇してお引取申し置く樣な事で、御叮嚀な御擧挨をなされますと、却つて當惑いたしますで、サア〳〵今度はお旗本のお嬢樣の番だ、一の堰で阿母樣を、見失つた跡のお吶しをなさいませ」と棟康に促され、お琴は前回に記せる如き事實を細かに說き來りて、喜連川の先にて思ひ掛なく、ソノお扣屋敷へ愚老をお招きの上實は恁々の譯だが如何したものぢろう、可成ものを强ひも、靡かせるといふのも可哀想だに依つて、釋して遣はしたいが、私しも彼の娘の爲には隨分と苦勞をして、又た少なからん散財もいたした、未練らしいが甚麼も思ひ切れぬに依つて、其方何とか取計ひ呉れい、同藩の事なれば、何とか好い便宜もあらうと、斯樣に被仰るんで御座います、そこで愚老は、一體その娘は會津の藩中で、何と云ふ者の娘かと尋ねると、野尻何某とか申したといふから、イヤそれはと喫驚して、妙な事もあればあるもの、魯公が先日薩州屋敷から、お救ひ取りなされた菊代と申す婦人こそ、ソノ娘の母御で御座る、會津藩には野尻と苗字を名乘る、家士が二人とは無いに依つて、それに相違御座らんと申した所が、清水樣も意外に驚きなすつてな、サテ〳〵不思議な因緣ぢやコリヤ如何したら宜しからうと、當惑しておるそになる、まア〳〵何事もこの愚老にお任せください、幸ひ母御も手前方に引取つて、お世話いたして居る事てあれば、何とか相談の上て御挨拶を申し上げることに仕りまする、それ程までに御執心ならば、魯公に對して恩義のある母御の身ても御座るし、よもや木て鼻括つた樣な、愛想のない返辭もなさるまい、就ては一先づ御當人をお預けくださる樣にと申した所が、いかさま左樣に計つて呉れゝば重疊だ、ては早速本人を、お手前に引渡す事にいたさう、併し身們の顏さへ見ると、咬着く樣に猛り立つて、惡口雜言する樣な始末、少々狂氣染みてまゐつた本人の事てあれば、引渡す場合に泣いたり喚いたり、騷ぎ立てられても困却、又たお手前の難澁とも相成らうから、身們が柔術の極意を以て、一時氣打をいたさせる、ソノ隙くお手前が、如何樣にもして連れまゐれ、爾して宅へ着いてからさる御家來は、ソノ清水義嗣樣でげすエ、ツ彼の清水がツ」とお琴は喫驚 棟「愚老は喫驚 琴「成程御合點がまゐりますまい、如何してお連れ申したンでげすが、イヤモウ死人も同然の御樣子、それを愚老が手術を以て苦もなくお活し申したンで御座りまする。

再び御斷り　本日插畫を入れる御約束なりしも紙面の都合に依り見合せ候讀者諸君焉を諒とせられよ

□天下の富豪

某投

三井八郎右工門君　岩崎久彌君　住友吉左工門君　安田善次郎君　鴻池善右工門君　藤田傳三郎君　高田慎藏君　大倉喜八郎君　古河虎之助君

△一億圓　△全　△五千万圓　△全　△三千万圓　△二千万圓　△全　△全　△總八百万圓

倫敦電報

●**輕氣球の競爭**（十月）十九箇の輕氣球は遠距離競爭の目的を以て昨日巴里より昇騰し其一箇は本朝サフオーク沿岸を去ること十五哩の地にて發見され都合十五箇ふ無事に降下せしも殘り四箇ハ行衛不明となり人々不安の念を起すに至れり

●**米國急行列車の奇禍**（上全）桑港發電に據れはセント、ロニス急行列車はセント、ロニスの西方に於て脫線し火災を起し多數の死者を生せりと

●**輕氣球隊の安否**（上全）巴里よりの後報に據れば行衛不明となりし輕氣球は皆無事なりしと

●**獨國宰相の英國行**（上全）獨國宰相ビューロー公は多分皇帝に蹕從して英國を訪問すへし

●**加國交涉委員の任命**（上全）加奈太國オツタワ發電に據れば同國國務大臣カートライト氏は日本移民制限の件に關する交涉委員に任命されたりと濠洲のシドニー發電に據れば仝國首相カルーター氏は急病にて其職を辭しウエード氏代つて內閣を組織せりと

●**獨國新聞の露協約論**（卅日）獨國半官報ノハト、ドイツチ新聞は英露協約に關し論じて曰く英露兩國は該協約に於て獨國の利益の存する點を確保せり且つ該協約は彼斯に於ける獨國の經濟的若くは政治的利益を毫も侵害せざることを明示せり

北京電報

二日午後六時北京特電

●**立憲及教案に關する上諭**　立憲政体を行ふには進歩の遲速により期限の長短を定むへく其進歩は教育に俟つを以て學部に命じ教育の普及を計らしめ且つ民政部に命じ自治規則を作り各省に命じて實行せしめ以て議員の資格を養成し立憲政治の速かに成立せん事を希望す又政体は君主立憲政治を採るを以て各督撫以下此旨を体し此政体に關し講究すべき旨上諭あり又近來教案紛出するは地方官が條約に不明なる結果なれば教民も國民と同一視し布教に關する條約を研究し教案の紛紜を豫防せへき旨の上諭あり

東京電報

二日正午東京特電

●**功臣嗣子の授爵**　故兒玉大將の嗣子秀雄父の勳功により伯爵を立見得爵を以て子爵を何れも陞授せられ故前田隆禮、新井晴簡、兒玉德太郎、角田秀松、東鄉正路、松村務本、山本信行佐雙左仲の嗣子へは襲れも男爵を授けらるる次第にて賞籔數增加の結果債券年利子は約四分に當る計算なりと

●**税關徵税成績**　大連税關第一期徵税高は約五萬圓にして輸入品にては綿糸綿布輸出品は豆、豆粕の税金尤も多きを占ひ

●**滿鐵本年の終工**　滿鐵復線工事は本年中金州迄土工を了へ來月中旬より冬期中々止の筈

●**滿鐵對東清鐵道の協商**　滿鐵會社は近々東清鐵道と直通切符並に彼我運賃計算方法に就き協議を開く等にて直通切符發賣は來年二月頃になるべし

●**田中理事の歸連**　田中理事五日鐵嶺丸にて歸連の筈

寛城子電報

三日午后二時長春通信員特電

●**間島派遣員の發**　新たに吉林全軍翼長に任し間嶋派遣を命ぜられたる陳紹常は隨員二十余名と共に本日當地を發し吉林に向へり尙は當地駐屯の第十二聯隊の兵も同地に派遣せらるゝ事に決し其被服食糧を載せたる馬車數十輛は既に出發したり

維新會報

●**日露條約と商工者**　某當局者の談

日露通商航海條約中我商工業者の注意をへき主要なる點としては第一に第二條に於て工業又は手工業に關する自由を保障せられたることとなり尤も從來と雖も「營業」と云ふ文字はありしも商業の外別に工業及び特に手工業と云ふ文字迄を挿入して疑義なからしめたるなり左れば將來我臣民は全然制限を受くることなくして此等の產業を露領內に營むことを得べきなり第二點としては双方の誼意に依り領事を置くことを得るに至りたることなり而して領事としての職權を以て學部に命じ教育の普及を計らしめ且つ民政部に命じ自治規則を作り各省に命じて實行せしめ以て議員の資格を養成し立憲政治の速かに成立せん事を希望す又政体は君主立憲政治を採るを以て各督撫以下此旨を体し此政体に關し講究すべき旨上諭あり又近來教案紛出するは地方官が條約に不明なる結果なれば教民も國民と同一視し布教に關する條約を研究し教案の紛紜を豫防せへき旨の上諭あり

東京電報

二日正午東京特電

●**功臣嗣子の授爵**　故兒玉大將の嗣子秀雄父の勳功により伯爵を立見得爵を以て子爵を何れも陞授せられ故前田隆禮、新井晴簡、兒玉德太郎、角田秀松、東鄉正路、松村務本、山本信行佐雙左仲の嗣子へは襲れも男爵を授けらるる

維新會報

●**吉長鐵道の踏査**

●**法庫門線の變更說**　更したる趣にて追々時季も切迫し來れるを以て目下頻りに人選中なりと云ふ

●**濱江關道の後任**　駐寧海關道薩季謙氏は駐露公使に榮轉し一先つ上京すへき命に接したる爲め徐總督は同地交涉局總辦杜學瀛と同地との間に所謂新邱鐵道（約四十哩）を敷設し新民屯と法庫門との間に鐵道を敷設するの計畫あり此の計畫は昨年來の事にして今年中には必ず起工すへき見込にて更に電達し暫く同海關道の代理を命したるが既に先月二十八日に於て一切事務の引繼をなしたりと云ふ杜氏は久しく同地にあり清露兩國間の交涉に熟達せるを以て同地海關道として最も適任なるべきを以て不日本官に任命せらるべしといふ

●**奉天營務處總辦の歸奉**　軍器軍糧調達の爲め天津に出張中なりし奉天營務處總辦倪嗣沖氏は既に公事を終り去月三十日歸奉せりと

●**度支司の衙署擴張**　奉天度支司衙署の隣なる奉天公報社は不日其家屋を清國に返還する事となりし由なるが度支司は同家屋を修理し同署を擴張する事に決定したりと

●**安東稅關の要員**　大東溝稅關分關開始の爲め安東稅關より關員の轉任せる結果安東稅關は著しく減員するとと爲れるが現在の重もなる關員は左の如しといふ

稅務司心得　ベーレン（米人）
封辦四等乙　ショー（英人）
仝　四等乙　武田信一
（高等官六等二級俸相當）
仝　四等丙　井坂濱五郎
（高等官六等三級俸相當）
港務長　モリソン（英人）
驗查員　大谷重信
驗查員　サチクラー（伊國人）
此外監守人三名（日本人）

尙同稅關には右の外更に一外國人近々天津より赴任すべしと云ふ

●**吉林實業視察員**　朱巡撫は吉省到る處礦山森林に富むを以て若し實業を奬勵するに於ては此によりて莫大なる收益を得らるべきを信し過日同省商工局長胡宗瀛に命じ實業家數名と共に日本に赴き實業振興の方法を視察せしめ銳意吉林實業界の發達進歩を圖りつゝありと聞く同視察員等は既に東京に着し一個月の後飾國すへしといふ

新奉線と借欵問題

●**新奉線の改築費**　は約八十万圓にして右は既に同鐵道主任技師の豫算に據り清國郵傳部より去る八月末我が北京代理公使に對し鐵道協定の規定に據りて其の半額の借入を申込みしを以て外務省は早速南滿鐵道に其の旨を通牒し爾來同社にては右に關する調查に從事しつゝありて未た商議の運に至らさるものなるが右商議地に付ては清國側にては天津を希望し滿鐵にては大連を選はんとするの意向なれど多分双方協議の上奉天を選定するとなるへし

●**牛庄電場の近況**　同驛に於ける前月中の降車客は一日平均四百八圓乘車客は三百人位にて其賃金は合計九万六千一百圓即ち一日平均三千二百圓強なり目下山東省より春季北滿地方へ出稼せし支那苦力を帶ぶる處あり又歸鄉の時節なる爲め四等車の降車苦力頗る多數なり猶關外線の情況を聞くに十噸貨車一臺に付き出荷稅二百元を課せらるゝ爲め昨今貨物の輸送頗る減少せる由

●**東清鐵道と豆粕運送**　東清鐵道に於ては今回其の繁榮策上豆粕の散積を許せりと云ふ

●**遼陽の義捐演習會**　遼陽西門外の佐藤三四郎は寄席建築中の處此の程落成せしに際し館の大火及び關東上方の洪水を聞き井上、小林中北岸本の諸氏と相圖り水火罹災民の爲め義捐溫習會を開催せり演藝者は城外各料理店藝妓及び機關庫其他の連中にて去る廿八日より三十日まで三日間素人義太夫、手踊り、落語、博多仁輪加等ありて每晩立錐の地なき程の入なりしかば去る一日まで日延せり同興行中の實費を差引き收益は悉皆居留民會に托して罹災地へ送付の筈なり誠に奇特のことと云ふべし

●**營口石炭の商況**　目下同市場は不振の方なるが勢力あるは矢張り日本炭にて門司及唐津炭尤も多數を占め相場は唐津炭十二圓五十錢位なり撫順炭は硫黃分に富み火力強きも燃燒急にて灰分多く且つ大抵切込なるも在荷常に豐饒ならざる爲め九圓十錢の高直を保ち居れり又開平炭は多く粉炭にて相場は十圓五十錢位なり

●**牛莊郵便局前月の成績**　當地日本郵便局前月の總收入五万八千百六十二圓八十九錢六厘八月中に比して一万二百余圓の減額にして延て商況の不振を語るが如き觀あるも實は然らず畢竟替振出高に於て減少を見たるに過ぎざりし元來爲替相場は日々變動あるべきものにて正金の如きは其日々の異動相場に依り取扱ひ居るも同局にては一週間は變更せざる規定にて之が爲め這般の掛引を主とする商人等は重に正金等にて振出したる結果なるべく之等の現象に據りて直ちに商況の不振に想到するはやゝ早計なるべしと云ふ左に前月の同局收入細則を掲げん

	金額	前月越高	差增減
並匯受入	五、二七〇、〇〇〇	二、〇九五	
貨幣交換差增高	二、〇九五、一七六	一五、七九六	
爲替振出高	二七、八九五、一七一	一七、八九〇	
外國爲替振出高	一一七、八九〇	四、〇三〇	
郵便取立金受入高	四、四八九、〇三〇	二、七二四	
貯金預金	七、二七四、〇〇〇	二、〇〇〇	
雜入金受入高	二、八二七、六四〇	二、三〇〇	
振替貯金受入高	七二、五三三、五二九	四、四五一、二三五	
前月越高	一、四五一、二三五	八九、六六二	
計	八九七、九九六、七二一	一件	

●**旅大間の長距離電話**　旅順大連間の長距離電話は來年三月より開始の筈なりしも時雨地の關係益々密接を加へ來れるを以て都督府に於ても明年を俟つべからずとし近々中不完全ながらも架設の準備に着手する由にて來年三月を俟て更に完成を期すべしといふ

●**電燈の工事申込延期**　當地電燈業は追々結氷期も近づくことゝなれば目下非常に工事の手を急ぎ居り來年一月一日より必ず開燈をする由猶電燈申込期は九月末日迄なりしが更に十月卅一日迄に延期せりと

●**奉天交涉司の移轉**　奉天交涉司は大南門內元日本軍政署に移轉する事に決し交涉局總辦陶大均氏の寓所驛巡道衙門は巡警道衙門に充てらるゝ筈なり

●**赤十字病院敷地の實測**　奉天に於て赤十字病院設立の議あるとは既報の如くなるが鐵嶺陸軍經理部出張所測量手伊東富藏氏は去る一日奉天に出張翌二日之が敷地の實測に着手したりと

●**大阪安東縣線の船繰變更**　郵船にては從來大阪安東縣線に使用せし淡路九の大阪へ歸航荷揚後は此を神戶浦鹽線に使用し浦鹽線の神戶丸を大連線に廻し目下の大連線使用船橫濱丸（千五百噸）は神戶へ繫船して不日競賣に附すべしと

●**米國學生團の遊歷**　米國スタンフオード大學生四名は遊歷の爲め過般滿洲へ渡航旅大方面を視察中の所去月三十日奉天に到着金城館に滯在中なりと

小國民の作物　（二）

親の恩

營口小學校尋常三學年生　坂部露

私どもは、小さいときに、お父さんや、お母さんにたいそー、おせわになりましたから、これから、一しんけんめいにせいだして、だれよりも、まけづにべんきょーを、せねばなりません。それからまた、今までにお父さんやお母さんにおせわになりましたからごおんがへしをせねばなりません、そのごおんがへしというのは、お父さんやお母さんが、病気になりになりたときにても、よくせわをしてあげねばなりません、またおとうさんやおかあさんのいふことも及ばざること遠し

●**列強の富力**　現時世界に雄視する七大強國の國富の程度及び人口一に對する富の割合ひ等は左の如くなりといふ

人口一に對する割合

	富の程度	五〇元七五五円
日本國	二二、六〇〇、〇〇〇	二、六八〇、〇〇〇
英國	一〇一、七六、〇一〇、〇〇〇	四、九四〇、〇〇〇
佛國	七二、一四四、〇〇〇、〇〇〇	一、九二八、〇〇〇
德國	三二、一三〇、〇〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇
墺國	二一、〇四四、〇〇〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇、〇〇〇
露國	二二、八八〇、〇〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇
米國	二一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	七六、〇〇〇、〇〇〇

右の如く國富に於ては米國の千五百三十八億八千八百萬圓を第一位とし一人割りに於ては英國の二千九百六十四圓を第一位とす日本は國富二百五十一億四千餘萬圓一人割五百五圓內外にして露國に及ばず伊國にも及ばざること遠し

●**銅貨改鑄案**　本年の議會に提出する等なりし銅貨改鑄案の成行を聞くに銅貨の量目形狀等は既に決定し居るも技術上尙完全ならざる點あり即ち中央に穴を穿つべき器械が目下我が國にあるものにては兎角完全に成功せず米國にて近頃使用せる新器械は頗る完全なるものなるより目下技師を彼の地に派遣しあり此の方が速かに運べば改鑄案は本年の議會に提出せらるべきも器械の調查時日を要するに於ては自然に次期に廻さるべしと

●**債券と割增金**　當局者は第二十三回債券賣出の失敗り懲り去る一日より發行せし新債券には一等千圓の當籔若干を附する計劃にて大藏省に交涉せし處債券利子を年三分內外に引落し稍や射倖的の性質を帶ぶる處ありとて大藏省當局者の爲めに否認せられ結局前回同樣の如く一等を五百圓とし其他總て當籔數を增加するに決し召命を奉じ去月廿八日遽に北京に向け出發せる徐總督は同夜山海關に一泊翌二十九日午後五時半北京に到着直に正華門內の自宅に入れるが前吉林巡撫段芝貴氏以下京津の同總督に緣故を有する大小官員數十名は或は山海關或は塘沽或は天津に迄出迎ひたりといふ

●**永瀧領事長春行**　過日來奉天滯在中なりし永瀧上海總領事は本月一日同地を發し長春に赴かれたり

●**吉林荒務大臣の任命**　前年達桂氏吉林將軍に任せられし時吉林荒務大臣を兼任せしめたりしが吉林は邊疆の重地なるを以て今回別に一大官を派するとなり汪蘇候補道陸樹藝氏吉林荒務大臣に任命せられ不日赴任の筈なりと

●**濱江關道の後任**　前寧海關道薩季謙氏は駐露公使に榮轉し一先つ上京すへき命に接したる爲め徐總督は同地交涉局總辦杜學

●**天氣豫報**　日十月三日午後六時至十月四日午後六時

營口　北風轉

吟味精製の稱特濃厚仕候たとい一個でも大効驗致候間御試用被下度候
勉取實仕るべく候

社則第十二號

南滿洲鐵道株式會社附屬地居住者規約左ノ通相定ム

明治四十年九月二十八日

南滿洲鐵道株式會社

總裁男爵　後藤新平

南滿洲鐵道株式會社附屬地居住者規約

今般南滿洲鐵道株式會社ニ於テ南滿洲ヲ開發シ並公共ノ利益ヲ增進スル爲其ノ附屬地ニ土木、教育、衞生等ノ施設ヲ爲スニ付テハ附屬地內ニ住居若ハ滯在シ又ハ土地建物ヲ使用シ若ハ建物ヲ所有スル者ハ左ノ諸件ヲ確守スヘキコトヲ承諾スルモノトス

一、會社カ其ノ施設ニ關シ又ハ公共ノ利益ノ爲制定スルノ諸規則ヲ遵守スヘキハ勿論公德ヲ重ンシ苟モ公益ヲ害スヘキ行爲アル間敷事

一、會社カ施設スル營造物ハ各自ノ營業ノ爲要スル費用ハ公費トシテ各自之ヲ負擔スヘキ事但シ其共用ノ方法公費ノ種類分賦等ハ別ニ規則ヲ設ケテ之ヲ定ムヘシ

一、此規約又ハ會社ノ諸規則ニ違反シ其他公共ノ利益ヲ害スヘキ行爲アリタル者ハ會社附屬地ヨリ退去ヲ要求スルコトアルヘシ但シ必要アル場合ニハ警察官ニ依賴スルコトアルヘシ

一、鐵道附屬地內ニ於テハ何レノ國人ヲ問ハス同樣ノ待遇ヲ受クヘキハ勿論ナルニ付共ニ規約ヲ嚴守シ和親協同ヲ旨トスヘキ事

社則第十二號

現定南滿洲鐵道株式會社附屬地居住者之約規。遵照後開條規。施行可也

南滿洲鐵道株式會社

總裁男爵　後藤新平

明治四十年九月二十八日
光緒二十三年八月二十一日

南滿洲鐵道株式會社附屬地居住者約規

南滿洲鐵道株式會社。現爲開發南滿洲地方。以增進公共利益起見。即擬於本會社附屬地內。施行土木教育衞生等項。仰居住該地域內者。或租用土地房屋者。或自有房屋者均應知悉。按照後開條規。遵守勿違。爲要。

計開

一、關于本會社設施。幷爲公共利益。所定各章程。遵照嚴守。固不待言。此外尙須各重公德。勿害公益。

一、關于本會社設施之公共營造之物產。應歸衆人公共之用。若遇有公共事務需欵之時。須由大衆湊集公費。此項公費出入之項。仍按等差。分門別類。另定章程辦理。

一、如有不遵約規。及本會社章程。或致阻碍妨害公共利益者。即應將該居住者。遷出附屬地外。不得異議。其有不遵者。酌量請警察官。實力施行。

一、凡居住附屬地內者。不問內外國人。一律相待。蓋以國籍雖異。亦必和衷協同。俱遵守本約規。是爲至要。

講談　假名太閤記

（第七十五席の上）　松林伯知口演

偖新關白の亂暴、已れの心に從はぬからと云ふて政所より預つて居るさじなる婦人を其良人諸共に殺害するなどは實に正氣の沙汰とは思はれませぬ、家老の木村常陸介は大いに之を嘆き段々御意見を申したのて、秀次公も余が惡かりしなり以來謹しむと仰しやつて其時は夫れて濟みましたか、元より無道の新關白、內心より行ひを改めると云ふ考へはない、常陸介の手前一時の御座成りを言つた丈けの事て、相變らず淫酒に耽つて佚遊を旨として居りました、餘り酒に醉ふと折々聚樂の御城の物見へ上つて風に當りながら市中の樣子を御覽になる、此聚樂の物見と云ふのは中々立派なものであつたさうで、秀次公は御側去らすの不破伴作を連れて是へ上つて市中を見る丈けなら可いが、中々さうてはない　秀「伴作どうぢや、中々美い女が通るな　伴「御意にムいます、京都は美人の產地とやら、美しき婦人か多く見えまする　秀「美い女が見當つたら貴樣參つて連れて來い　伴「其樣な事は出來ません……　秀「出來るも出來ぬもない、若し左や右く申したら關白の命ぢやと言へ、伴「どうも左樣な事は　秀「構はぬ〳〵、余の言葉を背くものはない筈ぢや、オウわれへ美人が見える、あれは何うぢや、少しまづいかな、向ふへ來たのは何うぢやし　などと表を通る女の品評會が始まつた、始めの內は斯う云ふとも二日に一邊か三日に一邊位であつたが、終ひには每日物見へ上つて市中を通る婦人を見ては伴作を相手に評をして樂しんで居らしつた隨分厄介な關白もあつた者て御座います。

俄と茶番

博多俄と稱する新喜劇近日當地へ乘込むべしとの前觸ありたれば思ひつきのまゝを左に書くべし

第一に俄と茶番とは何んな者かを知らされば面白くなし、太田南畝は「俗耳鼓吹」にて「俄と茶番とは似て非なる者なり、俄は大阪より始まる、今曾我祭に役者のする是れ俄なり、なんだ〳〵と問はれて思ひ付きのことをいふ之れなり、茶番は江戶の戲場より起る、もと樂屋の三階にて茶番に當りし役者はいろ〳〵の工夫を思ひ付き、景物を出せしを、茶番々々と云ひよりいつとなく今の戲場になれり、獨り狂言の身ぶりありてその思ひ付きによりて景物を出すを茶番といふなり、今專ら都下に盛んなり」といへり

今の世は大阪にて　曾我の家五郎十郎など起り新喜劇と自稱す、團十郎といふ俄師が名人なることは云ふ迄もなし然るに博多にも別派の俄あり、たゞ屋二〇加其尤もすぐれたるものなるべし、今度當地へ來るは疊屋俄か然らざるかは知らねど一寸見て面白きものなり

次に喜劇の話は西洋の譯名にて、喜劇通の話に依れば、總て人類の可笑的方面に關する撞着、抵牾、矛盾の箇所を描寫し以て吾人の理性に訴えるものなりとのこと、喜劇にも二通りありて沙翁の喜劇となり、はモリエールのよりも上品なるべし、されど喜劇としてはモリエールの方が確かに成功せるなり

博多俄には隨分無理に人を笑はしむる處ありて感心すべからず

娛樂機關の欠けたる當地にては之れにて滿足せざるべからず

日常見聞する風俗習慣を直ちに劇に移して他に不快を感ぜしめず、自己の短所欠點を以て、審美意識を滿足せしむるといふは流會翌十六夜も非常なる降雨にて亦々延期となりたるを以て改めて廿七日午后七時より本部に於て開會せり當日は都々逸文句入の福引あり亦圍碁の懸賞あり次て和歌、俳句、都々逸等の即吟懸賞を行ひて仝十二時散會せりと當日俳句の二三を左に

千山も殘の今宵三笠の月を見んかな
名月や百萬石の城の
白菊の露をつたうて昇る月
凡八に夢に破れて月見かな
白壁の影より暗く今日の月

百花園

●奉天　鐵道附屬地及び十間房にかけて先づ一寸繁昌せるに一力にて其客筋は嚴めしき御方が三分商人が七分なり而して藝妓は太郎、次郎、奴の三人酌婦は春子、雪子、初子、加野子の四人皆滿洲相當の名花何れ菖蒲が引きそ患らふの感あり太郎の得意はサヽリモノ奴も可なりの咽喉なれども次郎と來ては成つて居らぬこと夥しい春子雪子は所謂入方美人主義初子の初々しさ加野子の鹿の子班なる白粉の塗り方とり〳〵に目出度々々

●大相撲初日の重なる勝負　▲西昇加古川は双方氣合モロトモ立と西強引の泉川加古巧みに褒し左四つに成り加古すかさず小手投數回打もきまらず西の掬投美事キマル　▲高根松綾川は双方劇數突合右四つに成るや其後姿を伏し拜みしが纏て其跡を慕ひて朝日の勝　▲大林鳴戶岩は右四ツ入一氣に寄切らんとするを鳴戶土俵際にこらへしも遂にこらえきれず寄切て大林の勝之にて打出す時に午后九時四十分

●大相撲二日目の勝負　大連大相撲の二日目の勝負は左の如し

勝　負
有知嶽　釼石　勝　小猫　信乃川
有　明　增井川　清見嶽　綠　川
今　錦　浪花潟　左倉川　加古川
勝　時津風　荒木山　鳳　朝日潟
有知山　鳴戶岩　大　林　高根松
中入後
土州山　濱ケ崎　い　番外お好
浪花潟　加古川

●遼陽の文藝會　遼陽西門外淨土宗教會附屬淨法寺內文藝部は去る二月以來和歌、俳句狂歌狂句都々逸等の彙題に依り會員の句を集め蔗家宗匠の撰をこひ每月一回づゝ高麗の若草なる小冊子を發行し來りしが今回同部の秋期大會及び觀月會を去廿二日（舊十五夜）午后六時より丸山館新築樓上に於て開會の筈なりしが相憎雨天の爲め過ぎるから鏡を一枚進呈すべし（地廻り）▲祇園閣新來美人中に一人の發狂者が有る其原因は可愛い〳〵の色男を內地に置いて來たからだとはお安く無い子（コヒ猫）▲當地理髮は四十錢に減ずる條其筋の御說諭を望みます（一店員）▲平野町七福亭の梅花はチャンコロ相手には少し惜しい代物だ（看々生）▲鐵嶺萬城館の酌婦連は余り自惚れ

金二 骨牛 食料品　**雜貨 米穀**

澤田 札幌 支店　**販賣 競馬**

森病院　**醫學博士 森 宗作**　内科 外科 産婦 齒科　院長（診察時間 午前八時ヨリ午後八時マデ）

荷 冬 品

三越　**呉服店**　**日本橋**

今回恒例歳末謝恩の爲め
十月五日より十五日まで十日間
特別大賣出し
天鵞絨 縮緬 小紋 帶地 反物 洋服地 其他一切
地方顧客の爲めに
特別割引 又は 景品贈呈
外に 御仕立物 特別割引
人絹 御召縮緬 小紋 帶地 反物 洋服地 其他一切
地方顧客の爲めに
特別割引 又は 景品贈呈
外に 御仕立物 特別割引